

田原市立田原福祉専門学校後援会機関誌

# たっぶく だより

No. 8

編集発行 平成 17 年 3 月 1 日

田原市立田原福祉専門学校後援会  
会長 林 和 彦

## 介護の誇り胸に秘め

田原市立田原福祉専門学校校歌

作詞 大岡 信  
作曲 一柳 慧

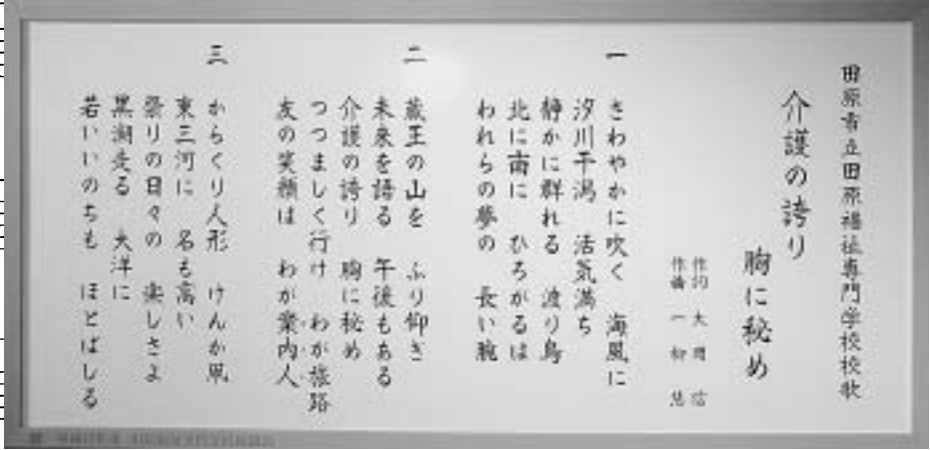
♩ = 136

1 さわやかに のり ふーく う みか ぜ にぎ  
2 さわやかに のり やまを ふけ りあか おだ こ  
3 からくー り にんぎょう

しおら か わ ひ が たる  
みいら かい わ ひ が たる  
ひが かし わ ひ が たる  
なな かも みー ちる  
なな かも みー ちる

しかま らずいつ れこび むほひ

校歌掲額  
講堂前面に



「研ぐ」



校長 高松 徹

私は暇を見つけて、ガーデンシユレツダーで庭木剪定後の小枝を粉砕したりする。直径3cm程度の小枝まで細くなるが、刃先がすぐ鈍ってしまう。だから近頃は、刃を研ぐことに興味を覚えている。

専門学校で学生を育てるのも、あの意味で、刃物に必要な切れ味を付けるようなもの。学生が刃金で、教師が砥石。お互いが文字通り身をすり減らし切磋琢磨している。

粗砥石で、切っ先のこぼれや歪みなどを矯正する。この状態で、既に切れるようになるが、いたつてもろく、刃こぼれを起こしやすい。そこで仕上げ砥石で時間をかけ、刃を磨き、ねばりを与えていく。この過程が切れ味と刃持ちを左右する。

硬い刃金は、砥石の表面をどんどんすり減らしていく。だから、研ぐ間に何度か「合わせ砥石」を当て、砥石の研ぐ面を整えていかないと、肝心の刃物の切れ味が甘くなってしまうことを教えられている。

# この人に聞く

四期生

田<sup>た</sup>野<sup>の</sup> 暁<sup>あき</sup> 夫<sup>お</sup> さん

今回は、卒業生の中で自分で事業を立ち上げた四期生の田野暁夫さんにインタビューしました。田野さんは学校へ五十五歳で入学され、平成十五年十月豊橋市天伯町の自宅でデイサービスを開設。現在は看護師の奥さんと一緒に運営されています。

**田原福祉専門学校への入学動機は？**

二十年前から社会の高齢化に関心があり、自らかかわりたいと思って社会福祉士を取ったけれど、現場を知らないと役に立たないことが分かり介護福祉士を取ろうと思いました。生活の心配はなかったですか？

その時は仕事をしていたので、これからの人生設計を考えると早期退職の道を選びました。早期退職ができたのも妻が働いていたから……。それって内助の功かな。(一同笑) 田原福祉専門学校があることは知っていたので、迷うことなく入学しました。

**学校生活で思い出に残ったことは？**

若い世代の人達の中で、年配の私

を違和感なく受け入れてもらえ、居心地の良い学生生活でした。でも検定試験は大変だったな。検定試験はいくつもあり、たとえばベトナム・キング・入浴介助・移乗の仕方など、どれも一回では受からなかった。そのため休み時間や授業が終わった後、よく練習したよ。先生は厳しかったけれど、やる気を起こす指導をしてくれたと思う。

**検定で大変ですよ。でもいい思い出になるし、とても役に立ってますよね。そういえば学校独自の授業もありましたね。**

僕は、特に福祉文化活動の演劇は素晴らしいと思っています。経験のない人が短期間で成長して、たつぷく祭には演劇を披露するまでになる。人を育てることに感動しました。今でも毎年たつぷく祭や卒業公演は観に行っていて感激し、涙を流しています。

**毎年行ってるってすごいですね。授業以外はどうでしたか？**

僕は積極的にボランティアへ行きました。豊橋にあるほとんどの施設へ三日ずつ行き、そのうち一日は泊まりも体験しました。学生だったの

で、施設の方でも快く受け入れてくれたと思います。

**積極的にボランティアで施設に行ったのですか。ところで学校の実習はいかがでしたか？**

施設での実習経験から、訴えの多い人とはよくかわれますが、おとなしい人だと一日中声もかけずに終わるのじゃないかと思ったのです。

それに、施設にとっていい職員と入所者にとっていい職員とは、必ずしも一致しないんじゃないかと思っています。一人ひとりに深く接したい自分には、施設介護は向かないと思いました。

**卒業後はどうされたのですか？**

実は山登りが好きで、勤めていた

ときにもいくつかの山に登っていたので、時間ができたこの時期、妻と一緒に日本百名山へ挑戦することにしました。

**百名山登るのに、どのくらいの期間かかりましたか？**

全ての山を制覇するのに二年かかりました。

**すごいですね。大変ですよ。**

登ったときの爽快感が忘れられませんよ。頂上に登って、足元に広がる雲海の景色を見るのは、何とも言えないですよ。

**素晴らしい趣味をお持ちですね。他にはどんなことをされていらっしゃいますか？**

父(明治四十一年生れ)が体調を崩したので、介護に京都まで通いました。京都と言っても天橋立の近くなんです。

**それは大変でしたね。最近、遠距離介護って言葉をよく聞くようになりましたよね。**

父は九十六歳で母は八十八歳です。二人で暮らしていて、僕が介護に通っている時、両親がデイサービスやショートステイを利用し始めました。生活にリズムと張りができました。日を楽しみに待つようになりました。それを見て自分も始めたいと思うようになりました。



田野さんご夫妻

**開設に当たってまず何をしましたか？**

平成十五年五月の連休のなか日に県庁へ相談に行きました。連休中なので県庁に来る人も少ないので、じっくり相談に乗ってもらえると思っ  
て……。僕たちの場合、自宅を開放しデイサービスができるかを相談しました。

**手続きを踏めば開設できるのです**

ね。  
始めたいと考えている人がいたら、相談にのりますよ。

**心強いですね。始められてからはいかがですか？**

高齢者とかかわっていく中で、僕は気がついたのです。高齢者は素晴らしい！彼らは人生の大先輩であり、戦争を体験され、戦後をたくましく生き抜いてこられた。強い意志や孤独に耐えられる力を持っています。例えば、食べるということでは、食料難を経験しているので食べられることに感謝している様子が伺えます。自分が食べられる量以外は着つけません。親が「明日は食べるものがないかも知れない」と思い、愛情を持って厳しくしつけた。だから僕たちは高齢者になれないと思います。明治や大正生まれの人たちはそれだけで賤という財産を持っていると思

います。また、忍耐強く現実を受け止めて生活している姿を見て、生き方を学ばせてもらっています。

**どうして地域で始められたのですか？**

福祉施設などを利用するときは、家族の意向が強く、高齢者が選択できない状況があると思います。そこで気軽に安心して過ごせる場所が地域にあれば、張りのある生活ができると思い、始めました。スローライフで利用者さんの満足感を得ることを目標にしています。

**通常よりも手厚い介護をしているのですね。それでは、一日の流れはどんな様子ですか？**

朝、お迎えに伺い、到着後から個



ピアノの先生を囲み...

別対応しています。例えば、家で一日中過ごされる人には散歩を勧めたり、おしゃべりする機会の少ない人には職員が聞き役になったりしています。そして食事前には嚥下を良くする為に口の体操をしています。この体操も毎回同じではなく、その人に合ったものを行います。食事も栄養バランスを考え、具だくさんの味噌汁と季節の果物を添えるようにしています。お風呂を希望される人は入浴し、休みたい人は横になってい  
ます。時にはみんなで懐かしいお手玉やトランプなどを楽しみます。おやつにはコーヒー・紅茶などを出します。僕はコーヒーにちよつとこだわりがあって、豆を挽いて入れます。そして帰宅前には簡単な体操と失禁予防の為に肛門体操をします。その体操中にトイレに行きたくなった人もいましたよ(笑)。最後に全員で歌を歌います。たまにピアノの先生がボランティアにみえ、生演奏で歌うときには、みんな目が輝いています。

**楽しそうですね。今後はどのように考えていますか？**

今デイサービスを利用している人が通所介護できなくなったら、訪問介護を利用できるようにしたいと思  
いました。それというのも顔を知っ



ている介護者に来てもらう方が安心感を得られると思います。平成十六年十月に開設しました。将来的にはグループホームを考えています。僕の意見だけ、せつかく田原市は公立で学校を運営しているので、市役所を退職する人に嘱託や外郭団体で勤めるよりも、学生になって、ここで学んで自ら起業してほしいな。そして街づくりに福祉の視点を取り入れてほしい。地域にデイサービスがもっと増えれば高齢者に選択肢が広がるし、サービスも向上すると思うから……。介護は素晴らしい仕事だと思っています。

**本日はとてもいい話をありがとうございました。**

(インタビュー) 松原・岡本

# 動いた、楽しんだ、そして輝いた

伝統の  
学園行事

## 凧まつり

実行委員長として  
凧まつりに参加し、  
まとめていくことの  
難しさ・連絡の大切  
さを実感しました。

少ない時間での準  
備でしたが、お互い  
に協力してやること  
ができ、良かったと  
思います。

初日は、テントの  
張り方やそれが風に  
飛ばされたこと、ま  
た、午後から雨が降  
り、小凧作りが室内  
に変更になったこと  
など、一つひとつが  
予想しないことの連  
続でしたが、仲間、  
保存会の方々、先生  
や学生課の方々のお  
力添えやご尽力のお  
陰で解決できました。  
大凧を上げる時中心  
配しましたが、無事  
に舞い上がりました。  
お招きした利用者  
の方たちにも楽しんで  
いただけて良かった



たと思います。

二日目は雨降りでの延期になり、施設と学生ボランティアへの中止・延期の連絡に忙殺されました。その後学生ボランティアの再募集にも苦労しました。

実行委員にならなければ分からないこともたくさんあり、学ぶことが多かったと思います。今回の凧まつりが成功できたのは、保存会や地域の方々、先生方や参加してくれた学生の助力・協力があつたればこそと感謝しています。私にとって、かけ

がえない素晴らしい思い出になりました。

(小林佳正)

## たつぷく祭

例年より少し遅いスタートでしたが、四月中旬「たつぷく祭実行委員会」が発足しました。

「みんなで自分の思いを語り合い、協力し、自分たちの手で作り上げていく。」をモットーに活動を始めました。しかし、ミーティングを重ねていくうちに、実行委員の意識の中に「まつり」に対する温度差を感じずにはいられませんでした。

実行委員というものに、楽しいイメージだけを持って参加した人もいたかもしれませんが、重く苦しい話し合いの時間もありませんでした。しかし、「四つ葉のクローバー」というテーマの下に、少しずつ連携と協力が見られるようになりました。本番が近づくとつれて、意識も高まり、全体が動いているように思えました。

両日とも、たくさんの方に「来校いただき、私たちの田原福祉専門学校での学びの姿を見ていただけたのではないかと思います。」  
「たつぷく祭」を終えて、多くのことを学ぶことができたと感じています。  
・人との関係を築くこと。

・自分の思いを伝えること。  
・相手の思いを考えることの大切さ  
や難しさ。

全学生それぞれ思いは違っても、みんなで歩んできた日々の中で、何か心に刻まれたものがあれば嬉しく思います。

最後になりましたが、全学生、教職員の皆さま、地域・施設の皆さま、そして実行委員会のみんなの力によって「たつぷく祭」が成り立つていたことを自覚し、心から感謝いたします。ありがとうございます。

(鈴木貴史)



## 田原まつり

九月十七日・十八日の二日間にわたり、田原まつりに参加しました。「田原組」が参加するのは、今年で五年目となります。

先輩からの伝統を受け継ぐとともに、自分達の個性を生かす。チームとして協力し合い、一人ひとりが責任感を持ち行動する。地域との交流を深め、出合いを大切にす。という目標を設定しました。

祭りを成功させたいと思う気持ちが大き過ぎて、逆にプレッシャーになったり、組長としての仕事は何なのか、やらなければならぬことは沢山ある筈なのに、何から手をつけたいのか分からないという状態もありました。このまま自分が組長として、みんなを引っ張っていけるのかと、自信を無くした時もありましたが、頑張っている仲間の姿を見たり、先生方からの励ましの言葉を頂いたりして、弱気になった自分に喝を入れることができました。

本番は、天候にも恵まれ、ケガ人を出すこともなく、楽しく祭りに参加でき、みんなの顔が輝く祭りを成功させることができたと思います。

四か月以上も前から準備をして、沢山悩んだ末に、最後は笑顔で終了

できたことと、仲間とともにやり遂げることができた嬉しさで安心しました。

マイペースなため、一人で行動することが多い私にとって実行委員長をやらせてもらったことは、多くのことを学ぶよい経験になったと感謝しています。そして、一番近くで支えてくれた実行委員の皆さんには特に感謝しています。

(山下真輝)



## 自治会

先輩に「自治会役員をやってみなしか」と誘われました。高校時代に生徒会役員の経験もあり、また、「メンバーが集まらない」というのを聞いて、引き受けました。

しかし、役員になったものの、仕

事は何なのかさっぱり分からず、会長なのに何もやっていない自分を責め、気持ちばかり焦りました。

自治会最初の行事は、クリスマス会の企画・運営でした。日時を自分たちで決めていかなければならず、日程調整などたいへんでした。また、クリスマス会を先輩たちへの感謝を込めた会にしようとしたのですが、先輩たちとうまく連携がとれず、人数が集まらなかったことを反省しています。

タバコの喫煙問題をどうするか、も自治会の課題になり、対応に苦慮しました。

自治会役員として一年間務めることができたのは、自分一人の力ではありません。一人だったら投げ出していたでしょう。一緒になって悩み考え、協力してくれた他の役員メンバー、励ましてくれたり、助けてくれた周りの友だち、先生方のお力添えのお陰です。

最初の頃は、役員になったことを後悔したこともありましたが、でも今は役員になって良かったと思っています。会長になったからこそ、自分が成長できたと思いますし、学ぶことが多かったです。今後、この経験を活かしていきたいと思っています。

(村雲淳美)

## お知らせ

後援会総会に合わせて、四期生の同級会を開催します。

- 1.日 時 / 平成17年5月15日(日)午前10時30分から
- 2.集 合 / 田原福祉専門学校

四期生同級会世話人代表 鳥 井 加奈子

田原福祉専門学校 ☎0531-22-3939

# 活躍する卒業生紹介

六期生の岡田悦子さんを紹介します。

岡田さんは、現在、豊橋市に在る知的障害者授産施設「明日香」



(社会就労センター)  
**「SELPの夢を語る」～SELP夢コンテスト～」にて**  
**明日香職員**  
**岡田悦子**さんの夢(アイデア)が  
**優秀賞受賞!!**  
**おめでとうございます**

に勤めています。

**Q.** 明日香はどんな施設ですか。

**A.** 知的障害者がクッキー作りや下請けの箱作り、クリーニング作業などを行っています。私は、個々の人に合わせて、就労技術の援助をしています。知的度合いも重度から軽度まで幅が広く、対応がさまざまです。一般就労へ結びつけてもらいたいのですが、実際は難しいですね。利用者たちは、仕事を通じて世の中に役立ちたいと頑張っていますよ。

**Q.** 今回、コンテストで受賞されたと聞きましたが、それはどんな内容のものですか。

**A.** 一九九五年、全国の授産施設は障害者の就労支援や所得保障(工賃を上げる)を進めるために、事業を協力して行うための社会就労センター(通称「SELPセルプ」という組織をつくりました。

今回、この社会就労センターに関わる職員や利用者の意識の活性化、高揚、また、社会就労の促進そして、社会就労センタ

# 学校の職員紹介



大場貴枝先生

**住まい** 宝飯郡御津町

**好きな言葉** 千里の道も一歩から  
**マイブーム** 公園 かくれんぼ  
**図書館** 「日本語であそぼ」

**コメント** 学生の記録やレポート

を読んでいると時々ハツとするような感性に出会います。その度に、今の思いやり・優しさを大事にしつつ、いかに専門職としての視点・知識・技術を身につけていくかを学生と一緒に考えていきたいと感じます。

また、日々のかかわりの中で伝えることの難しさと自身の勉強不足を痛感します。少しでも心に残るような授業にするため、また学ぶことの楽しさを感じてもらえるために、より一層努力していきたいと思えます。

## 学生課の群像

別所克巳事務長

私は、日頃からある言葉を念頭に置いている。『ありがとこの気持ちに相手に伝えるには、相手の目を見て言わなければいけない。』有名なプロゴルファーの言葉である。

**太田誠雄課長**

輝く明日をめざして!!そんな気持ちで毎日取り組んでいます。

**大場直子係長**

日々修行です。でも、人の苦勞は人によって癒される。声掛けてください。

**林田雅文主事**

たつぷくの学生と接するようになってから気持ちだけは若返りました。

**木村真一主事**

平成十六年四月から学生課に来ました木村です。毎日フレッシュな気分ががんばっています。

**大羽みのり主事**

「いつも笑顔」が目標です。よろしく願います。

**中野佳代用務員**

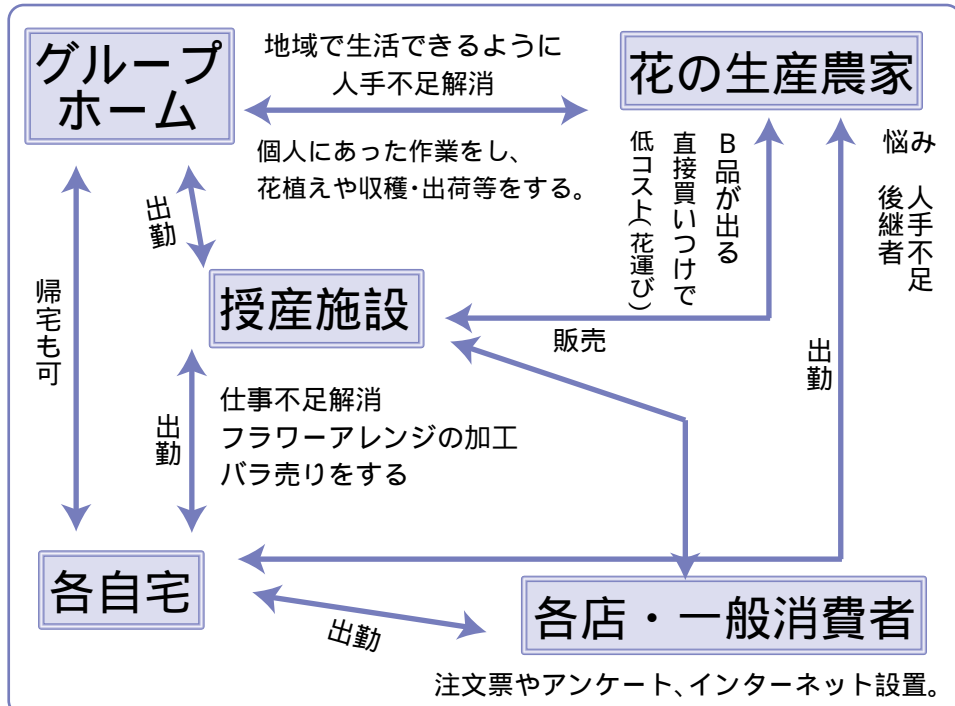
開校時から用務員として過ごし、月日の流れの速さを感じています。



林田、木村、別所、太田  
中野、大羽、大場

「の活性化につなげるためのアイデアコンクールが行われ、私も応募しました。全国から多くのアイデアが寄

図が、発表に使った全体の構想図です。」



せられた中で、思いがけず優秀賞を頂き、鳥取県米子市まで出かけて発表してきました。(右の

に貢献できたら素晴らしいだろうと思います。(インタビュー 石井・柴田)



岐阜・飛騨の丸亀 仁美さん からの手紙 (六期生)

私は、現在、特別養護老人ホームで介護職員として働いています。仕事にもようやく慣れ、充実した毎日を送っています。皆さんに、考えてもらいたいこと、大切にしたいことがあります。それは、死についてです。

私と同じような経験をされた方がいると思います。田福を卒業した二か月後、父親が亡くなりました。癌と告知され、既に末期の状態でした。

今、思えば、私の父親は何かを伝えたいかと思えます。私自身が仕事をしていく上で大切なことを分かっていたかと思っていたのかも知れません。

父親の亡くなっていく姿を見て、命ってこんなに重いものなんだ、心臓が動いていることがこんなに幸せなことなんだと感じました。

父親は人工呼吸器をつけて、しゃべることができませんでした。病室には知り合いや親戚の方など大勢の人がいました。私はその時、人のつながりの大切さ、会話の大切さを感じました。この次、何時会えるか、次にしゃべるのは何時になるのか分かりません。だから、出会ったことへの喜び、会話、接し方を大切にしなければなりません。現場では、利用者さんの言葉一つひとつに耳を傾けて、心と耳で聴いてみて下さい。利用者さんの言葉、訴えを聞いてあげること、すこく安心されます。こんな態度で接していくと、お互いが笑顔で話をしていることに気がきます。利用者さんとの接する時間を大切にしたいと思えます。

父親の死から月日が経ち、今度は、危険な状態、苦しんでいる利用者の発見に携わることが多くなりました。私は、目を必ず見ます。目の動き・目の色・顔色の変化を見ます。学校で、終末期のケアを勉強しま

したが、見て判断することは、現場で体験しないと分からないことだと思えます。大切なことは、「いつもとは何かが違う!!」と感じ、それに気付くことです。少しの変化を発見することで、利用者さんの命を救うこともできます。私がこのようなことに気付くことができたのも、父親の死や利用者の方々と接する時間が多くあったからです。

二つ目に伝えたいことは、家族の大切さです。私の祖母は、実の子供(息子)すなわち私の父親の死のショックから認知症が進みました。今までやっていたことが意欲がなくなってできなくなり、すっかり変わってしまいました。世間では、こういう状態になると認定を受けて、デイサービスなどを利用するのが一般的ですが、私の祖母は、こうしたサービスを受けていません。祖母が「あんな所には死んでもいきたくない。」と拒否するからです。

高齢者の方は誰でも本心はそうだと思います。それに、どのように対処していくかが問題だと思えます。私の祖母の場合は、本人の意志を壊さないこと、気持ちをお大切にあげることがだと思います。このように考えるのも家族がいるからだと思います。介護者が一人だったら、ストレス・怒りでケアしている側が疲れて、辛くなりそうです。こうならないように家族のみんなが協力しなくてはならないと思えます。私の家族は、私のできないことは他の誰かが自然とやっけていて、家族のチームワークが強いのです。だから、私はストレスをためずに、祖母と接しているのかもしれない。

祖母は、生きている楽しみをいつも語ってくれます。そうした中で、私は普通には発見できないこと、深く考えることができているのだと思えます。家族は大切です。一人でもいなくなる辛いことだけど、この悲しみは、家族の一人ひとりの強い心に変わっていくと思えます。

辛い時、一人で悩んでいても、家族が近くで支えていてくれます。だから、福祉の道を進む方に、少しでも私の体験から考えてもらえればいいなあ、知ってもらえたらいいなと思って、手紙を書きました。



オーナー 柴田 美代  
 お客様  
 松原 宣子 岡本貴美子  
 石井 理枝 岡田 悦子  
 朝比奈由美子 山下 宏雄  
 田村 勇志 伊藤 若英

① こんにちは。今回は人数も多く年令も色々でいいですね。皆さんの現在の仕事の様子から話してください。

② 私は、重度心身障害者通所施設に勤めています。

③ 私は、老健併設のグループホームにいます。

④ 私は、以前、特養にいましたが、今は病院勤めです。

⑤ 私は、以前、ホームヘルパーをしていましたが、今は、デイサービスで働いています。

⑥ 私は、認知症対応型のグループホームで働いています。

⑦ みんな日常生活はどんなふう？

⑧ 僕は特養でユニットケアをしています。食事はフロアごと真空パックで届き、温めて陶器に移して提供しています。

⑨ 僕の所は、隣りにある老健からくる。グループホームだけと作らない。

⑩ 僕は、隣りにある老健からくる。グループホームだけと作らない。

⑪ 僕は、隣りにある老健からくる。グループホームだけと作らない。

イと作る。たまに、面白い味噌汁や、有りえないおかずがで上がるよ。

① そうなんだ、いいね!!他に、グループホームならではのいいなと思うところはどんなところ？

② お風呂もいっしょに入ったりするよ。

③ えっ!!男性と?女性と?

④ 女性とも入るよ。男性スタッフだと喜ぶおばあさんもいるよ。

⑤ 私は、同性介助が基本だと思っていたんだけど、どうかな?

⑥ アットホームな雰囲気だからできる。若い男の子と入ると孫に思えたり。イイかもね(笑)

⑦ 肌と肌の触れ合いは安心できるのかな。

⑧ 喜んでくれるおばあさんは、僕のこと旦那と思っているみたい。

⑨ 施設だとお年寄りが多すぎて難しい。本当は一緒に入って、背中を流し合えたら理想的だよな。

⑩ グループホームでも施設でも、経営者の介護観が大切。それによって現場が左右されるので、働く側は大変だけど、お互い志(思い)を持

って仕事をしていきたい。あきらめちゃいけないね。

① 新しい所が色々できているけど信念を持って作った所、規模が小さいだけのミニ施設など。場所はどこであれ、そこで自分がどう学んでいくか、その姿勢が一番大切。

② じゃあ、最後に皆さんの夢を教えてください。

③ 私は、知的障害者とかかわる仕事をしている。今、通所の障害者たちが将来年をとったり、両親が亡



くなつた後の暮らしが心配だよ。グループホームや施設に入るのかな。障害を持つ人の家族同士集まって、皆で支え合って生活したいとの声もあり、私もそういう暮らしを支援していきたい。現実難しいけど。

④ 私は、自分の住んでいる地域でグループホームを立ち上げたい。その地域のお年寄りが入所できたらいい。それまで築いてきた地域でのなじみの関係を壊さずに暮らしているのが一番いいかな。

⑤ 皆、それぞれ夢を持っているね。頼もしいなあ。現実には越えなければならぬハードルばかりで大変だけど志を持った良き先輩や同僚、友人たちに支えられながら、一つひとつ頑張っていこうね。

⑥ また集まって、本音トークしようね。

⑦ 集まるっつ、集まるっつ!!

編集後記

今回は、新メンバーも加わり、楽しく活発に仕事が進みました。時に、愚痴をこぼし合ったり、悩みを聞いてもらったりのストレス解消の場でもありました。こんな編集委員会もいいな。ーは、私の実感・本音です。また来年。

(柴田)